

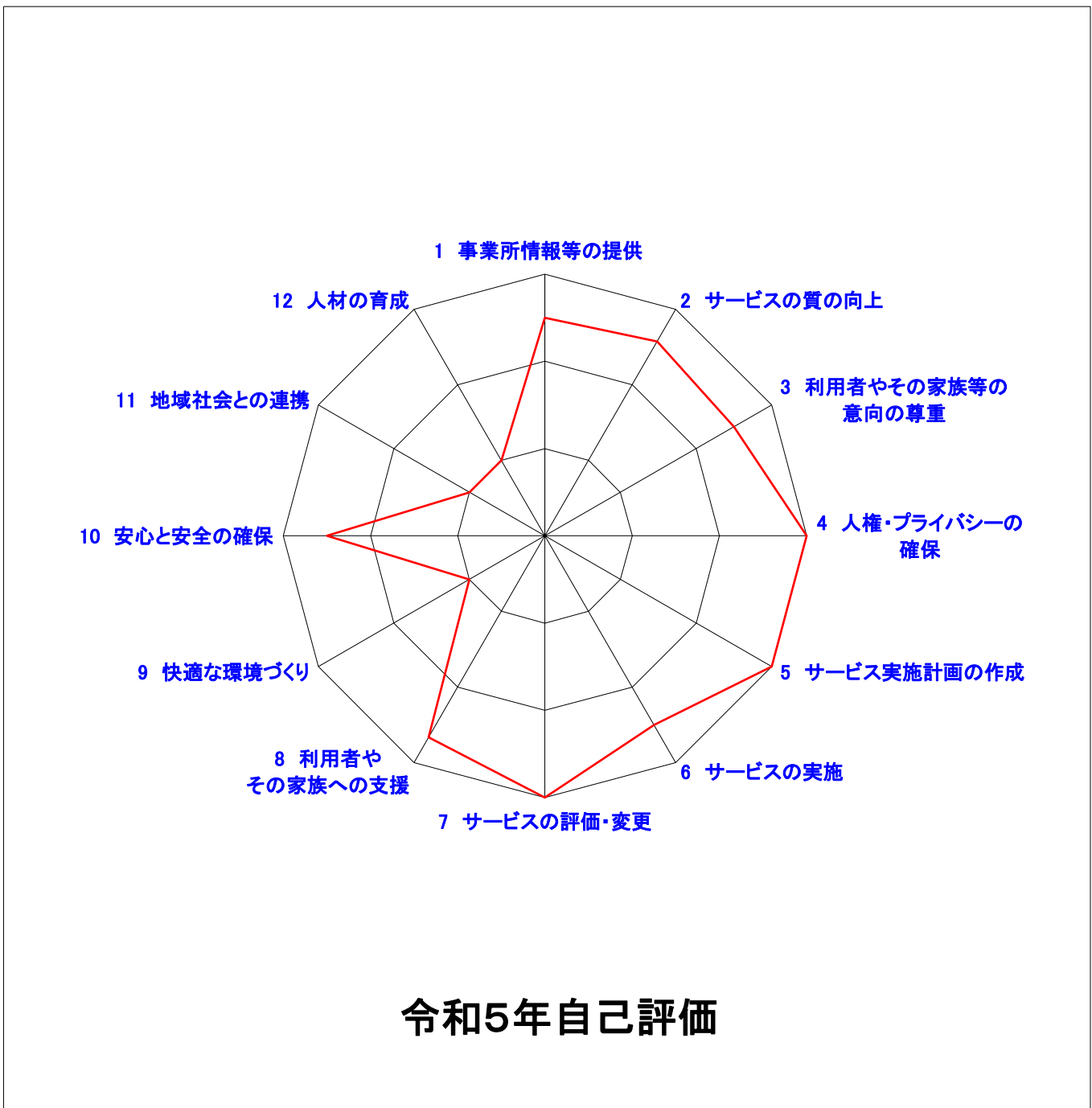


セントマーガレット病院 通所リハビリテーション

(事業者番号: 1210410449 )

通所リハビリテーション(予防)

事業者名 医療法人社団 恵仁会
事業所名 セントマーガレット病院 通所リハビリテーション
サービス名 通所リハビリテーション(予防)
評価委員構成 リハビリテーション科 科長 : 清水 貴義 リハビリテーション科 通所リハビリテーション副 主任 : 野原 晶 リハビリテーション科 理学療法士 : 山中 和樹
評価手順 2023年12月20日 通所リハビリテーションに携わるス タッフに自己評価 2023年12月29日 リハビリテーション科科長評価 2024年1月5日 評価委員による評価まとめ
自己評価年月日 令和6年1月5日
評価責任者 役職名 リハビリテーション科 科長
評価責任者 氏名 清水 貴義



事業所の運営			
<b>1 事業所に関する情報等の提供</b>			
事業所のサービス提供に関する基本方針を職員及び利用者やその家族等に周知している。	A	B	C
事業所が行っているサービスの情報を積極的に提供している。	A	B	C
「事業所に関する情報等の提供」に関する特記 サービスの基本方針の周知をはかる			
<b>2 サービスの質の向上</b>			
サービスの質の向上を目的とした検討体制を整備している。	A	B	C
サービスの質の向上への取組に職員が参加している。	A	B	C
サービスの質の向上への取組に利用者やその家族等の意見を取り入れている。	A	B	C
サービスの質の向上に向けた計画的な取組を行っている。	A	B	C
職員の資質向上に向けた体制を整備している。	A	B	C
職員の研修機会を確保している。	A	B	C
職員に対するスーパービジョン(指導・助言)体制を整備している。	A	B	C
「サービスの質の向上」に関する特記 基本的にスタッフ数も少なく入れかわりがあまりないためその都度必要に応じて研修、講習参加など行ってきたが今後は新規採用職員も出てくることも想定して いく必要あり。ただし、優先項目ではないため当分は現状で進める。			

利用者の尊重・保護			
<b>3 利用者やその家族等の意向の尊重</b>			
サービス内容の決定において利用者やその家族等の意向を尊重している。	A	B	C
利用者やその家族等からの不満や不服を解決するための取組を行っている。	A	B	C
「利用者やその家族等の意向の尊重」に関する特記 説明に関わる職員は限られており今後どの職員でも行えるにはマニュアル作成必要			
<b>4 人権・プライバシーの確保</b>			
人権やプライバシー確保に配慮している。	A	B	C
個人情報の保護を徹底している。	A	B	C
「人権・プライバシーの確保」に関する特記 職員内での周知は不十分 今後研修等取り入れていく			
<b>サービス実施過程の確立</b>			
<b>5 サービス実施計画の作成</b>			
利用者一人ひとりの目標を明らかにしたサービス実施計画を作成している。	A	B	C
「サービス実施計画の作成」に関する特記			
<b>6 サービスの実施</b>			
サービスの標準的な実施方法を定めている。	A	B	C
利用者の状況などに関する情報を職員が共有している。	A	B	C
「サービスの実施」に関する特記 サービス実施方法は確率されているがマニュアルとしては不十分であり今後作成予定			
<b>7 サービスの評価・変更</b>			
サービス実施に関する評価を行っている。	A	B	C
サービス実施計画の見直しを行っている。	A	B	C
「サービスの評価・変更」に関する特記			
<b>サービスの適切な実施</b>			
<b>8 利用者やその家族等への支援</b>			
サービスを個別・具体的に実施するための方法を明らかにしている。	A	B	C
利用者やその家族等からの相談に積極的に対応している。	A	B	C
利用者の状況を利用者の家族等へ情報提供している。	A	B	C
「利用者やその家族への支援」に関する特記 食事・入浴サービスは行っていない			

9 快適な環境づくり			
快適な食事環境の整備に配慮している。	A	B	C
「快適な環境づくり」に関する特記			
食事の提供なし			
10 安心と安全の確保			
事故防止や安全管理を徹底するための取組を行っている。	A	B	C
事故や災害の発生時に適切に対応できる体制を整備している。	A	B	C
衛生管理などを徹底している。	A	B	C
利用者の健康保持に配慮している。	A	B	C
「安心と安全の確保」に関する特記			
災害時のマニュアル、衛生チェックリスト作成中。			
地域等との連携			
11 地域社会との連携			
事業所の役割を果たすために必要な地域の関係諸機関・団体と連携している。	A	B	C
ボランティアの受入に配慮している。	A	B	C
「地域社会との連携」に関する特記			
通所リハビリテーション単独では規模が小さいため病院他部署との連携をしながら地域との連携を図っていく			
12 人材の育成			
実習生を受け入れる体制を整備している。	A	B	C
「人材の育成」に関する特記			
短時間型なため実習時間には満たず通所リハビリテーション単独では行っていない。リハビリテーション科の一環として見学程度は行っている。			
総評			
短時間型で少人数対応のため、関わるスタッフ数も少なく情報連携は取りやすい。定期的にミーティングにて利用者情報の共有も行っている。サービス実施に関しても定期的に評価を行い本人、家族と見直しを行っており現状にてケアマネジャーとの連携も取れていると思われる。しかし契約、指導に関わる職員に限られており何となく出来ている、という状況でもある。管理者以外の職員も現状どの状態か、また、指導できるスタッフが増えていけるようマニュアル作成を進めていく必要があると感じた。			